

道徳

小学校 第6学年

OS・ソフト等

- iPad
- ロイロノート

<単元・題材名等>

六年生の責任って？

ねらい

最高学年としてできることについて話し合う中で、何が6年生としての責任なのか悩む「ぼく」の姿を通して、よりよい学校にしていくために、6年生としてどんなことができるかを考えさせ、集団における自分の役割を自覚して責任を果たし、学校生活を充実させようとする実践意欲と態度を育てる。

主なICTの活用方法

- ・ 大型掲示装置で、導入時に事前アンケートの結果を、終末では学校をよりよくしようと行動している具体的な姿の写真を提示する。
- ・ 協働学習支援ツール（ロイロノート）の「シンキングツール（ポジショニング機能）」を用いて、自分の立場を明確にしてから全体交流を行う。

ICTを通じて育成する資質・能力

- ・ アンケートの結果や具体的な姿を見ることで、実際の日常生活とつなげて自己を見つめることができる。
- ・ 登場人物の誰の考えに近いのか自分の立場を明確にした上で、発表したり仲間の考えを聞いたりすることを通して、多様な考えを理解できる。

実践の概要

本時では、最高学年としての役割や責任を自覚し、よりよい学校にしていくために、6年生として自分のできるのかを考える。導入で、「6年生の責任とは何か。」について事前に行ったアンケートの結果を提示することで、6年生としての役割があることを意識できるようにする。そして、登場人物3人の意見の中で誰の意見に賛成なのか、ロイロノートの「シンキングツール」を用いて、自分の名札を動かすことで立場をはっきりさせてから交流を行う。全体交流では、仲間の話を聞き、考えが変わったら随時移動することで、多様な考えがあることを理解できるようにする。終末では、最高学年として行動している姿の写真を提示し、日常生活とつなげて学校生活をよりよくしようとする実践意欲と態度を育てる。

児童の学びの様子

- 導入において、大型提示装置を用いて、仲間の意識を表したアンケート結果を見ることで、日常の場面と本時の内容項目を結び付けることができた。
- 展開では、登場人物3人の考えを視点に、「話し合いの続きをしてみよう」という設定を基に、児童は、ロイロノートのポジショニングの機能を使い、「Y字チャート」上で自らの立場を明らかにし、どのような考えに賛同しているのかを伝え合うことができた。多くの児童が発言することで、多様な考え方を共有し、他者理解を図ることにつながった。
- 導入と同様の場面を終末の場面で実際の写真を示しながら紹介した。それが、一人一人が具体的に自己見つけをする場面につなげることができた。



指導のポイント

- 「他者理解」を図るために、「ポジショニング機能」により、一人一人の立場を明らかにし、多様な考え方を共有する。また、ICT 端末で視覚化を図りながら仲間の考えを聞くことで、他者理解を図るとともに、自分の立場を変えながら考えを深める。
- 導入や終末において、ICT を活用しながら、具体的な日常の場面を位置付けることで、自分との関わりで道徳的価値を捉え、自己の道徳性を見つめられるようにする。